

# 日本看護歴史学会 會報

日本看護  
歴史学会  
第63号  
2015年1月15日

## 年頭所感 判断は史実を指標に

日本看護歴史学会理事長 川嶋みどり



年頭にあたり新春のご挨拶を申し上げます。旧年は、自然災害に明け暮れましたが、今年は、平和で穏やかな年でありたいと心から念じております。とはいえ、そうしたごく平凡な願いさえ、叶うかどうかと思わせる地球の気象環境です。海水温上昇に伴う大型台風やハリケーンが、世界中で多くの人々を悲しませ苦しめました。今こそ、自然の一構成員でもある人類の英知が問われていると思います。目先の便利さや効率さに惑わされず、誰もが人間らしく生き、暮らすことに価値をおいた文化の再構築が求められています。

さて、昨年は、本学会編著書「日本の看護の歩み—歴史を創るあなたへ」（日本の看護120年改訂版）を発刊しました。「今、看護師であるなら誰もが読むべき書」と高く評価して下さったのは、ある大学の学長（社会学者）でした。会員諸姉、諸兄のご感想は如何でしょうか。

ところで、今というこの“時”は、国にとっても看護にとっても重大な選択の分岐点に立っていると思います。4年目を迎える被災地の復興をさておいて、70年間守り続けた不戦の矜持が壊れかねない動きが強まりそうな気配の年の瀬でした。服装だけではなく心までカーキ色一色に染まった戦時下で、あらゆることに我慢を強いられた少女時代を過ごした者として、危惧

感を感じるだけでは足りない思いです。

看護に目を転じますと、「医道審議会保健師助産師看護師分科会」が年末まで5回開催されました。「医療・介護統合法」という大きな法案の中に組み込まれて国会を通過した、“看護師の特定行為の研修”（案）の具体化を図るための審議です。これまで絶対的医行為として、看護師が手を染めなかった領域の仕事を可能にする研修を歓迎してよいものかどうか。ケアのレベルを維持することさえ困難な現場で、看護師のアイデンティティと、看護の受け手の方たちへの影響を思いながら、ものごとを歴史の指標で考えることの重要性を感じます。

アメリカの看護理論家リディアホールは「医師の仕事がどんどん委譲されてくるにつれ、看護師が手放さねばならなかったのは、独自の熟練領域である安楽を与える身体面のケアであった」と述べ「専門職看護師が、痛みを与える“実務医師”を選択したことにより、患者は熟練した安楽のケアを奪われ学習の機会を逃した」と述べています。50年前に書かれたものですが、日本においても真摯に受け止めるべきではないでしょうか。

チーム医療とは、各職能ごとに専門性を発揮して、患者の健康回復やQOLに貢献することであり、職能の範囲を超えて他職種に協力するものではないと思います。看護系大学が250を超えようとしている今、医師の業務の下支えとしての看護を位置づける特定行為の実施は、看護学の独立とは逆行し、看護の自律への脅威とさえ受け止めることができます。“今”のこの動きを丹念に見つめ記録し、解釈、考察することは、看護歴史学のテーマであり、同時に、歴史研究者の社会的な責務といえましょう。

## 日本看護歴史学会 第10期理事・監事発足に寄せて

日本看護歴史学会副理事長 岡山寧子

新しい年を迎え、会員の皆様のますますのご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。日本看護歴史学会では昨年の学術集会での総会后、新しい理事・監事体制がスタートいたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、2015年はどのような年になるのでしょうか…そんなことを考えながら、久々に過去の日本看護歴史学会会報を手に取りました。中でもその年々の学術集会については、様々な切り口での看護歴史を知ることができ、ついつい興味深く見入ってしまいました。会報もすでに62号が発行され、学術集会も今年で29回目の開催となることに、改めて本学会のずっしりとした歴史を感じました。また、本学会の創設に尽力された亀山美知子氏をはじめとする多くの方々の「大きな力」によって、本学会が発展してきたことがよくわかりました。本学会の第1回大会から参加している私にとって、この約30年はあっという間だったような気もしますが、この間、日本の看護界は社会が求める看護の姿に応える努力を重ねながら、大きく変化してきたように思います。この変化を史実としてできるだけ蓄積し、

検証することが本学会の大きな役割であり、それを発信していくことが看護への貢献につながるものだと実感しています。その意味でも、看護の歴史研究を今まで以上に活性化させていく努力が必要なのではないでしょうか。学会の存在感をアピールする広報をはじめとして、学会誌の充実や学術集会での研究活動推進などを学会全体で精力的に取り組んでいくことが求められているのではないかと思います。

個人的な話で恐縮なのですが、昨年、私は今春開設予定の看護学部準備のために同志社女子大学に異動しました。同志社といえば創業者新島襄が1886（明治19）年に看護教育を開始した歴史を有しています。同志社にはその関連史料が多く保存されています。それをちょっと紐解いていくと、また新しい史料が発見されるというように、色々な方々のご協力のお陰で、少しずつ史料が増えてきています。まだまだですが、それらを整理し、保存・活用ができるようなればと願っています。もし関連の史料をご存知の方がおられましたら、ぜひお教えていただければと思います。

## 日本看護歴史学会第28回学術集会を終えて

第28回学術集會会長 滝内隆子



日本看護歴史学会第28回学術集会を無事終了することができました。会員の皆様はじめ、ご参加下さいました多くの方々のご支援とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。おかげさまで、参加者は看護学生と一般の方々を含めると210名と、予想を上回る盛況な学術集会となりました。

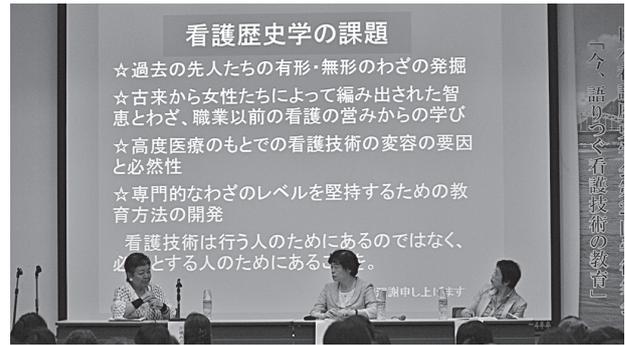
日本看護歴史学会の岐阜での開催は、今学術集会が初めてでしたので、岐阜の特色を盛り込んだ学術集会の開催を目指しました。岐阜県の特色がでるように、教育講演Ⅱとして、近藤真庸先生（岐阜大学地域科学部教授）に学校看護婦として活躍した「廣瀬ます」を含めて「岐阜県における養護教諭の歴史」についてご講演頂き、参加者とともに岐阜県における看護の歴史を共有することができたと思っております。また、懇親会の後に「鵜

飼い」を組み込みました。小雨は降っていましたが、童心にかえって船頭さんの話に相づちを打っている会員の皆様、また、篝火のもとで鵜匠に操られて鵜が鮎を捕る幻想的な「鵜飼い」に身をのりだして見ている会員の皆様の姿に企画者として喜びを実感しておりました。

また、近年、看護基礎教育の卒業時における学生の看護技術力の低下と併せて看護教員の看護技術力の低下が指摘されています。そこで、教員・学生ともに高い看護技術力が備わっていたと考えられる占領期に看護技術の教育を受けた方々を始めとして、その教育を受け継いでこられた先輩諸氏に、これからの看護技術教育への示唆を含めて語り継いで頂き、看護技術教育について参加者とともに考えることができればと思います。「今、語り継ぐ看護技術の教育」をテーマにシンポジウムを開催しました。シンポジストには川嶋みどり先生（日本赤十字看護大学名誉教授）、阿曾洋子先生（武庫川女子大学教授）、石井範子先生（秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻教授）と日本の看護技術教育を築いてこられた方々にご講演を頂きました。現代の看護技術教育のスタートである占領期から平成の現在に至るまでの看護技術教育について実践を踏まえて語り継いで頂き、参加された皆様には多くの学びになったのではないかと思います。

さらに、若い世代に看護歴史への関心・興味を持って頂けるように「ヒストリー・カフェ」を開催し、佐々木秀美先生（広島文化学園大学副学長）にフローレンス・ナイチンゲールについてご講演頂きました。看護学生が看護の歴史への興味を深める有意義な機会になったと思っております。

「手作り」と「心温まる」を合い言葉に開催しました日本看護歴史学会第28回学術集会を終え、来年開催の北海道の地にバトンタッチします。本学会のますますの発展を心から念じております。



## 第29回日本看護歴史学会学術集会の開催に向けて

札幌医科大学 城丸瑞恵

日本看護歴史学会会員の皆様、よき初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年日本看護歴史学会第29回学術集会は、8月22日（土）23日（日）に札幌で開催させていただくことになりました。今回の学術集会のテーマは「歴史学の可能性と未来—空間と時間を越えて」です。過去から現在、現在から未来に向けて歴史を学ぶことの面白さ・意義について皆様と意見交換をして深めることができたら幸いです。内容としては時間軸と水平軸から歴史の可能性と意義を考えるプログラムを考慮して構成しました。時間軸の視座からは、多様な世代から看護の未来に対する発信を意図したシンポジウムを企画しています。また、北海道は開拓医療、北海道アイヌの伝統的療術など独自の看護・医療の歴史があり、それを現在・未来に語り継ぐ講演を考えています。水平軸の視座においては日本から海外に視野をひろげ世界遺産と看護に関連する歴史的意義について教育講演を企画しています。これらのプログラムの他に、動物が生命をどのように次の世代につなぐのか、またその意味に関する特別講演を行

います。順次、学会の詳細はホームページにアップしていきたいと思っております。

8月の札幌の平均気温は25～27度と、比較的過ごしやすい気候です。また、学会会場の近くには市民の憩いの場である大通公園、札幌のシンボルである北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）、札幌の歴史の資料が展示されている札幌市資料館など札幌の魅力が発見できる場が多くあります。海鮮料理・ジンギスカン・乳製品など食の楽しみもあります。

第29回学術集会の企画・準備委員一同、本学会が皆様の未来への力になることを願い、精一杯準備を進めて参ります。そして皆様とお会いできることを楽しみにしております。どうぞ皆様からの多数のご参加・ご発表をお待ちしております。

〈お問い合わせ先 第29回学術集会事務局〉  
〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目  
札幌医科大学保健医療学部看護学科内  
TEL (011) 611-2111 (内線2850)  
FAX (011) 612-5525 佐藤

日時	プログラム	会場
8月22日（土）	9:30～10:20 【会長講演】「看護史教育の課題と未来の看護創造への可能性」 城丸瑞恵（札幌医科大学） 座長：日下修一（聖徳大学）	第1会場
	10:30～11:40 【シンポジウム】「繋ごう！看護の歴史を現在から未来へ」 シンポジスト：川嶋みどり（日本赤十字看護大学）、作田麻由美（北海道社会事業協会 余市病院）、 小山舞香（札幌医科大学附属病院）、山口莉穂（札幌医科大学保健医療学部看護学科） 座長：丸山知子（北海道看護専門学校、前天使大学学長）	第1会場
	11:50～12:50 総会（昼食時間）	第3会場
	13:00～14:00 【教育講演Ⅰ】「世界遺産の歴史的意義—建築学史の視点から—」 羽深久夫（札幌市立大学） 座長：田中幸子（慈恵会医科大学）	第1会場
	14:10～15:10 【教育講演Ⅱ】「語り継ぐ北海道の医療の歴史と未来；開拓地における女性の役割—インマヌエル村の萩野吟子の足跡をたどりながら—」 林美枝子（日本医療大学） 座長：萩原直美（札幌医科大学附属病院看護部）	第1会場
	15:20～16:20 【理事会セッションⅠ】	第1会場
	14:10～16:20 研究発表【口演・示説】	示説会場
17:00～18:30 【懇親会】		
8月23日（日）	9:30～10:30 【特別講演Ⅰ】（市民公開）「北海道アイヌに伝わる健康の知恵」 関根健司（アイヌ語講師） 座長：鈴木真理子（美唄聖華高等学校）	第1会場
	11:00～11:50 【特別講演Ⅱ】（市民公開）「命をつなぐ動物園—明治期からの取り組みと現在、そして未来へ向けた発展へ—」 朝倉卓也（札幌円山動物園飼育員） 座長：杉田久子（北海道医療大学）	第1会場
	9:30～10:30 【理事会セッションⅡ】	第2会場
	10:40～11:40 【理事会セッションⅢ】	第2会場
	9:30～11:40 研究発表【口演・示説】	示説会場

## 六史学会報告

聖徳大学看護学部 日下修一

日本医史学会・日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会・洋学史学会合同12月例会（六史学会）が12月13日順天堂大学で開催された。今年度は日本看護歴史学会からは日下が発表を担当し、「日本で最初に雇用された女性看病人について」というテーマで報告した。

6学会の報告後、順天堂大学が4月に開館した日本医学教育歴史館の見学会が行

われ、1時間ほど観覧した。順天堂大学の医学教育に関する貴重な資料と全国の医学教育の歴史を示す展示物・掲示物、解説映像が見られるモニターなどがあり、事前予約により入館できるようになっている。その後行われた懇親会では日下が最近の本学会の動向として、「日本の看護のあゆみ」の出版、戦争と看護、特定行為の研修制度についての報告を行った。全体として盛況だった。

### 新入会員紹介(敬称略)

\* ( ) 内は会員番号 平成26年7月～平成26年12月入会

山田 敦士 (14024)	人見 雅子 (14025)
増井麻衣子 (14026)	荒木 玲子 (14027)
岩本 淳子 (14028)	窪島 領子 (14029)
鶴若 麻理 (14030)	大橋 淳子 (14031)

### お知らせ

#### ■事務局から

平成26年度会員動向(平成26年11月30日現在)

1. 会員数(特別会員1名を含む)	369名
2. 入会者数	31名
3. 退会者数	4名

#### 会費納入のお願い

平成26年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いいたします。事務局からお送りした払込取扱票を紛失された場合は、郵便局にある払込取扱票に口座番号「01010-1-52185」、金額「6000」(ただし、2年分未納の場合は12000)、加入者名「日本看護歴史学会」、通信欄に「会員番号」、ご依頼人の欄に「郵便番号・住所・氏名・電話番号」をご記入いただき、窓口かATMで払い込みください。3年間会費滞納の場合、退会となり会員資格を失いますのでご注意ください。

#### 所属・住所変更や退会の場合

所定の変更届や退会届(本会ホームページからダウンロードできます)を事務局にご提出ください。

#### 学会誌投稿論文の送り先

投稿論文の送り先は事務局ではありません。送り先は、

〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 田中幸子(日本看護歴史学会誌編集委員会)宛ですので、お間違のないようお願いいたします(今年度も何人かの方が事務局に送付されています)。

#### 学会誌バックナンバーの販売

事務局が保管している学会誌と学術集会講演集のバックナンバーを会員・一般の方に販売しています。詳しくは学会ホームページをご覧ください。

#### 編集後記

岡山先生の「会報にみる学会30年の歴史」の記事を読み、会報も時代を映す史料の一つであることを実感しました。充実させるべく努力していきたいと思っております。ご意見や要望を是非、お寄せください。(ゆ)

### 日本看護歴史学会会報 第63号

企画・編集 川原由佳里(日本赤十字看護大学)  
三上 れつ(中部大学)

発行責任者 鷹野 朋美(事務局会報担当)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012  
東京都渋谷区広尾4-1-3  
日本赤十字看護大学  
鷹野 朋美

TEL 03-3409-0190

FAX 03-3409-0589(代表)

e-mail t-takano@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>